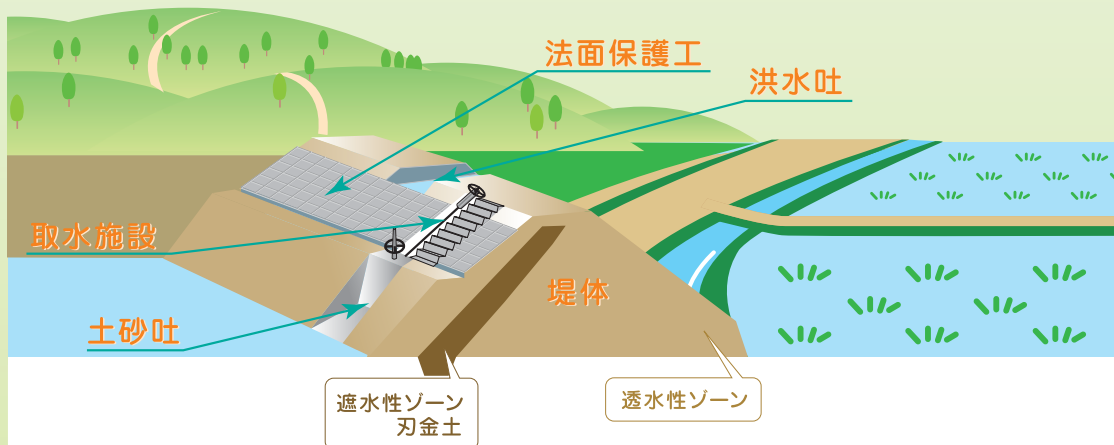


ため池のしくみ

ため池は、田や畑にかんがいする水を確保するために、古くは西暦700年頃（古墳時代）から造られ始めたといわれています。ため池の堤防は、水がもれないように土を締め固めて造られています。また、大雨の時に、水が堤防を乗り越えないように排水する洪水吐や、取水施設が設けられています。



堤体

ため池の堤防は土で造られており、均一に締め固めた透水性ゾーンと、粘土質の土（刃金土）を締め固めた遮水性ゾーンで構成されています。

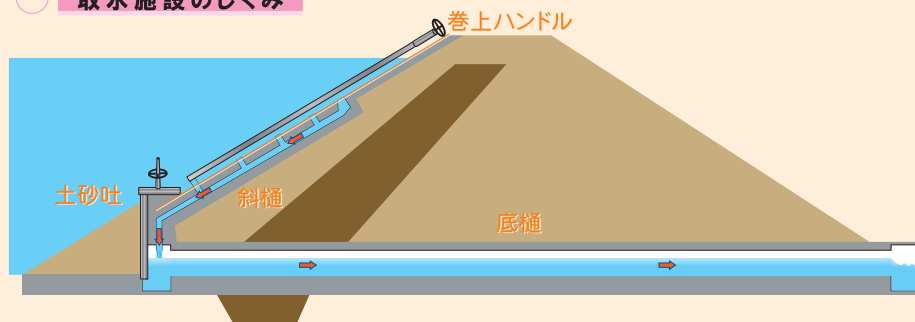
法面保護工

捨て石やコンクリートブロックを張り、波や風などの浸食から堤体を保護しています。

取水施設

ため池から用水を取り水する施設です。田や畑に送る水を取り水する斜樋と、池底から水を抜く底樋があります。取水施設の横には、操作、管理のため階段が設けられています。

取水施設のしくみ



日光で暖められた水を取り水（温水取水）するため、巻上ハンドルを操作し、ため池表面の水を斜樋から取り込みます。池の水を抜く場合には、土砂吐を開けて底樋から水を排出します。